平方北小学校の再編に係る方向性（素案）についての

アンケート報告書

令和8年10月

上尾市教育委員会

目次

1. 経緯と目的 2
1.1 アンケート実施の背景・経緯 2
1.2 調査概要 2
2. 保護者アンケート集計 3
2.1 回答者の属性 3
2.2 素案に対する意見・提案の概要 3
3. 教職員アンケート集計結果 4
3.1 回答者の属性 4
3.2 素案に対する意見・提案の概要 4
4. 地域住民アンケート集計結果 6
4.1 回答者の属性 6
4.2 素案に対する意見・提案の概要 6
5. 保護者アンケート全体と市の考え方（回答） 7
6. 地域住民アンケート全体と市の考え方（回答） 15

1. 経緯と目的

1.1 アンケート実施の背景・経緯

上尾市学校施設更新計画基本計画（令和５年３月改定）における学校規模適正化の基本方針に基づき、「上尾市立平方北小学校の再編に係る方向性（素案）」を作成した。これに伴い、児童の保護者、教職員、および地域住民の意見、要望を把握するため、アンケート調査を実施した。

1.2 調査概要

〇対象者及び周知方法

	周知方法	対象者数
平方北小学校に在籍する児童の保護者	保護者連絡網	１１０名
平方北小学校の学区に居住する未就学児の保護者	郵送	９３世帯
平方北小学校の学校関係者	-	３２名
地域住民	学区内地域への回覧 市ホームページ	平方北小学校学校区内人数 ９７５９名 （令和８年４月１日時点）

〇実施期間

令和８年６月１８日（木）～８月７日（金）

〇主な調査内容

① 説明会への参加状況
② 再編案（素案）に対する意見・提案の有無
③ ご意見・ご提案（自由記述）

2. 保護者アンケート集計

2.1 回答者の属性

回答件数：20件
※複数選択可

0歳（2026年4月2日～）	0
0～1歳（2025年4月2日～2026年4月1日）	1
1～2歳（2024年4月2日～2025年4月1日）	0
2～3歳（2023年4月2日～2024年4月1日）	3
年少（2022年4月2日～2023年4月1日）	1
年中（2021年4月2日～2022年4月1日）	2
年長（2020年4月2日～2021年4月1日）	5
小学1年生（2019年4月2日～2020年4月1日）	4
小学2年生（2018年4月2日～2019年4月1日）	3
小学3年生（2017年4月2日～2018年4月1日）	4
小学4年生（2016年4月2日～2017年4月1日）	1
小学5年生（2015年4月2日～2016年4月1日）	5
小学6年生（2014年4月2日～2015年4月1日）	4

2.2 素案に対する意見・提案の概要

方向性（素案）への意見・提案

ある	10名
ない	10名

意見・提案の概要

意見種別	主な内容	意見数
特例措置	指定校3校からの選択制、特例措置の対象者拡大	2
学童保育の受入体制	再編先の学童に入れないのではないかという不安	2
再編スケジュール	方向性が決まっているのであれば最短で進めるべき	2
児童の心理負担	分割して再編することで友達と離れてしまう	4
その他	少人数のメリットを感じていない、マンパワーを集約できる、行政の進め方に対するご意見	4

3. 教職員アンケート集計結果

3.1 回答者の属性

回答件数：15件

職位

学級担任	7名
担任外	8名

勤続年数

10年未満	5名
10年～20年未満	5名
20年以上	5名

3.2 素案に対する意見・提案の概要

方向性（素案）への意見・提案

ある	2名
ない	13名

教職員アンケート全体と市の考え方（回答）

回答者	意見・提案の詳細	市の考え方（回答）
学級担任 １０年～２０年未満	様々に検討いただきありがとうございます。子どもたちの安全・学校生活が、よりよい方向にいくように進めていただければと思います。宜しくお願いいたします。	貴重なご意見として賜ります。
学級担任 ２０年以上	どのように移行していくのか。移行が始まったら教職員の勤務はどのようになっていくのかが気になります。移行時の交流や連絡等は在籍の職員で行うことになるのでしょうか。行政の方も来校して説明やご参加いただけるのでしょうか。また、この後の保護者等の説明会で出た意見も知りたいです。	移行時の交流や連絡等は、他市町村の事例となりますが、教育委員会が事務局となり教職員、保護者等で構成された再編準備委員会を設置し、その中で協議されることが多いです。本報告書とともに保護者等の説明会議事録を共有させていただきます。
担任外 １０年～２０年未満	本日はご説明ありがとうございました。今回、質疑応答に答える形で、最短でいつ閉校になるのかや、少しずつ移動先の学校に慣らしていくことなどの説明がありましたが、それらは皆が聞きたいことだと思うので、最初から説明に含めていただけると、地域の方や保護者の方も安心されるのではないかと思いました。	貴重なご意見として賜ります。

担任外 ２０年以上	再編に関しての具体的な話がなかったので、何を伝えたい説明会だったのかが、よくわからなかった。説明会自体は直接質問もできるのでありがたい。この先、もう少し具体的なことが決定したら、説明会をまた開いてほしい。声が聞こえないので、マイクを使用して行ってほしい。	貴重なご意見として賜ります。

4. 地域住民アンケート集計結果

4.1 回答者の属性

回答件数：39件

居住地

平方北小学校区内	5名
平方北小学校区外	33名
不明	1名

4.2 素案に対する意見・提案の概要

方向性（素案）への意見・提案

ある	36名
ない	3名

意見・提案の概要

意見種別	主な内容	意見数
教育環境の最適化	児童の教育環境整備を最優先にし、望ましい学校規模へ再編を求める	4
少人数学級の価値	小規模校は一人ひとりに目が届き、手厚いケアを受けられる	21
子供への影響	通学距離が延びること、3校に分かれることへの心理的負担を懸念	5
避難所等の機能維持	避難所機能の維持、学校開放の継続	12
行政の対応	説明会開催のタイミング、関係部署もふまえた説明会の開催	8
地域の衰退	学校がなくなると子育て世帯に選ばれない地域になる	7
その他	学童をなくさないで欲しい、再編になった場合は学校を柔軟に選択できるようにして欲しい、学校を壊すことでCO2が排出される　等	14

5. 保護者アンケート全体と市の考え方（回答）

児童の年齢	意見・提案の詳細	市の考え方（回答）
小学 1 年生	方向性（素案）への意見・提案なし	-
2～3 歳, 小学 2 年生 小学 6 年生	今の平方北小の学区を別の学校へ分けるのではなく、学区編成をして、平方北小に児童を増やすようにして欲しい。別の学校に行くことにより、児童が過剰に増え、学童に通えない、入れないなどの懸念がある。実際現在でも、学童によっては人数が多すぎて高学年は通うのが困難になっている所もある。	平方北小学校の学区を拡大して児童を増やす手法につきましても、検討を行ってまいりました。しかしながら、平方北小学校の近隣校だけでなく大石方面を含めてシミュレーションを行いましたが、適正規模には至らない結果となりました。平方北小学校の児童が他校へ編入する場合であっても、学校だけでなく学童も 1 つのパッケージとして対応してまいります。
年長	方向性（素案）への意見・提案なし	-
0～1 歳	方向性（素案）への意見・提案なし	-
年長 小学 2 年生 小学 6 年生	人数少ないメリットを平方北小で感じられない。人数少ないのに先生は生徒の心の変化やクラスの状態を把握しきれてない。	小規模校においては教員数が限られるため、一人の教員が担う校務や対応範囲が多くなり、結果として一人ひとりの子供に向き合う時間の確保が難しくなるという構造的な課題も存在しております。ご指摘を真摯に受け止めるともに、子供たちの学びに望ましい学校規模の整備を進めてまいります。
年中 年長 小学 3 年生 小学 4 年生	方向性（素案）への意見・提案なし	-
年中	方向性（素案）への意見・提案なし	-
小学 1 年生	何も知らずに新一年生を迎えた親の身としてはこのまま卒業を迎えて欲しいのが本音です。せめて未就学時期の学校決定の通知の際に詳細な説明と選択肢があったら良かったのにと思います。（例えば①分割されることが前提の上で入学②初めから分割される先を選択できた③そもそも平方北小学校入学がなかった。等）せっかく良い学	再編となった場合には、友人関係を考慮し学校を選べるよう特例措置の導入や丁寧な移行支援を検討し、お子様の負担軽減に努めてまいります。

	校、先生方、お友達に恵まれたと思っていた矢先に分割となるのは非常に悲しい気持ちでいっぱいです。また子どもにとっても環境に慣れたところからまた大きく変化してしまうのは大きい負担になると思います。	
小学２年生 小学５年生	色々思う事ありますが今現状で思っている事は大石南小、平方東小では学級崩壊しているとの話を耳にしている。目が行き届いていないのでは？（家庭の問題も大いにあるとも思っています） そこにさらに平方北小の児童が転入してまともに学校生活送れるのか？ 正直通わせるにあたり不安です。 あとは学童問題。平方東はだいぶ定員多く大変そうです。それに加えてさらに平方北小の人数を受け入れるのは無理ではないか？学校だけの問題ではなく、きちんと学童も整備して今いる平方北小学童の子達が変わりなく安心して利用できるようにしてください。 北小が廃校になる事で子供達へのメリットは一つもないです。 北小廃校は反対なので廃校案が消える事願ってます。 早く廃校案が撤廃されてこのやりとりが無くなること願っています。	子供たちが新しい環境で落ち着いて安心して学べるよう、教育委員会としては学校と密に連携し、体制を整えていく必要があると考えております。 学童保育につきましても、現在利用しているお子様が安心して継続利用できる体制を整えます。
小学５年生	方向性（素案）への意見・提案なし	-
年長 小学５年生	単純に距離による学区ではなく、どの小学校に行くか子どもと保護者に選択肢を与える。	貴重なご意見として賜ります。
小学６年生	方向性（素案）への意見・提案なし	-
小学５年生	先生方や事務員さんなどマンパワーを分散しているのは良くないと思う。再編には賛成だが、関わる子どもたちに不利益にならないよう最大限配慮をしていただきたいと思います。	再編となった場合には、友人関係を考慮し学校を選べるよう特例措置の導入や丁寧な移行支援を検討し、お子様の負担軽減に努めてまいります。

2～3 歳	事前に用意していた質問についてはご回答誠にありがとうございました。本日の意見がどの段階で、どのように判断に反映されたかを後日必ず公開してください、ということを要望として挙げさせていただきます。引続き何卒よろしくお願いいたします。	いただいたご意見がどの段階で、どのように判断に反映されたかを公開するかにつきましては検討してまいりますが、説明会でいただいたご意見やアンケート結果については HP にて公開いたします。
小学 1 年生	方向性（素案）への意見・提案なし	-
小学 3 年生 小学 5 年生	本校に通わせている保護者としては、小学校という一番長い学生生活を同じ仲間たちと 6 年間過ごすということはなかなか経験できないことかと思います。確かに、ひとクラスで 6 年間過ごすだけだと経験できないことも多いかもしれません。でも、子供たちなりにこの仲間たちで 6 年楽しく過ごすにはどうしたら良いかを考えて試行錯誤しながら日々を過ごしていて、得られることもたくさんあると思っています。失くしてしまうことは簡単かもしれないけど、簡単に失くさないでほしいとも思います。	貴重なご意見として賜ります。
年長	来年小 1 を迎える子の親です。そして通っていた高校が廃校になった経験を持つものです。(卒業をしてから 6 ～ 7 年後に廃校) ★率直に提案です★ ---------- ①在校生とそのご兄弟(姉妹)※について来年度以降の学校を指定校 3 校のうちの選択式とする ②これから小学生を迎える生徒に関しては現段階で指定校 3 校の選択式とする ※①②の特例は『在校生+5 年後に決まるであろう再編案がまとまる年度までに生まれた子まで／仮 2031 年 3 月末』とする ③それ以降に生まれた子は決まった再編案に準じ通学する ④これを市の HP や毎月送られてくる市の冊子などに公表する	いただいたご提案につきましては、検討の参考にさせていただきます。 意思決定に時間をかけすぎることでお子様やご家庭に長期間のご不安を与えてしまう点につきましては重く受け止めております。保護者の皆様の選択肢や安心感を確保しながら、できる限りスピーディーな判断と情報発信に努めてまいります。

	---------- (理由) ①②③④とすれば多くの直面する方々の不満や意見などは軽減できるのではないでしょうか？ ①②は自分たちで決めるから不満はでませんよね？(たとえ兄弟バラバラになっても、学校が廃校になってしまっても廃校になるかもしれない学校を選んだのは誰でもない自分たちですから)市の財政や教育環境の観点から個人的には再編は賛成です。 ③はこの状況を知りえた状況で入学する訳ですから、確認してなかったなど理由にするかたは論外となるはずです。 私どもの気持ちとしては、なくなってしまうかもしれない、もしくはいずれなくなるとわかっている学校に『校区だから』『決まりだから』という理由でいかせたくはありません。入学を手放しでは喜べず、また在籍期間もずっとそのことが頭から離れないからです。そんな状況では友達とも深くかかわれません、いずれさよならしなくてはいけなくなるからです。そんな学生生活が有意義とは思えませんし、小学生にそんな想いをさせたくもないです。だからこそスピーディーに決定をしてほしいのです。 議会の運営方法についても不満があります。時間かけすぎです。なにか案がきめられなければ動けないのでしょうか？再編したいしたいという軸はあるんですよね？今日も意見しましたがダブルスタンダードではいけないですか？そうすれば相対的な保護者の不満も減るはずです。不満のある人を減らせば不満をかかえる協議していく人も減るのではないですか？丁寧に意見を聴取する＝時間をかけることだとは思えません。みなさんの意見吸い上げすぎて、推進力を失い迷走している印象です。民間会社	

	ならとっくに潰れてます。だれの意見を吸い上げているのか存じませんが、正直再編までに卒業をむかえる親御さんはこの件には関心が薄いです。本件に熱い関心を持っているのは、『入学を控えこの事態にこれから直面する家族』と『再編以降に卒業をみこまれる家族』のみです。たまに卒業生が、わが家に母校をつぶさないでほしいとアンケートを求めてきますが、それは卒業生のわがままだと思っています。学校がなくなっても正直なにも変わりません。想い出は消えませんので。とにかく一番最悪なのは決めるまで時間を要し、親子の都合を無視され、決めたことを強制執行されるのが一番嫌ですし、不満も募ります。私たちには時間がありません、どうか迅速なご判断を求めます。	
2～3 歳 小学 5 年生	現役保護者として説明会に参加。そもそも再編に必要性を感じない。でもどうせなくすことは市の意向で決まっているんでしょ？という気持ちで参加した。ふんわり形だけの説明で始まったうえに、わざわざとっていた事前アンケートの回答がないまま質疑応答が始まって事前アンケートの対応は？？と不安に。その場に同席する人達全員の時間を無駄にしないように、質問に対する回答を用意する為に事前に聞いたんじゃないのか？と、最初から対象者に説明する誠意を感じられないスタート。説明していただいた回答も口頭ではほとんど聞き取れずよくわからない時間を過ごした。他の方の質疑応答の回答として白紙になる可能性もゼロではないと言っていたが、説明会に参加していた市の職員全員が、廃校にすること前提で話しているという印象。時間がギリギリになるくらい質問や意見が出たもののそれはこういう理由で難しい、それ	説明会では事前の質問に対する適切な回答準備ができておらず、申し訳ございませんでした。 今回の説明会は素案に対するご意見をいただく場として設けさせていいただきました。児童数の推移や教員負担の課題などを用いて、今回の素案を作成した経緯をご説明させていただきましたが、データや理由の説明が不十分で申し訳ございませんでした。 児童数が横ばいであっても、全学年で 1 学年 1 学級の状態が継続する見通しとなっております。単学級が続くことで、「6 年間クラス替えがなく人間関係が固定化しやすい」「運動会や合唱などの集団活動・多様な意見を交わす授業の実施に制約が生じる」といった教育環境上の課題がございます。子供たちの学びに望ましい学校規模実現のため、今回の素案を作成させていただきました。

	は気づかなかった、意見は吸い上げてやっていく等課題の指摘や反対意見をかわす言葉を頑張って用意しているだけのように感じた。市の財政難や、過疎化している地域にお金はかけられない、校舎の老朽化等どうにもならない理由で廃校が決まっているなら、もうどうしようもない理由で決まってるからこの説明会も良い対処方法を決めるためのものです！とはっきり言ってほしかった。そうでなければ,ここから5年後に生徒数が半減するとかではなく完全に横ばい。出された数字を見る限り急な変化はないのになぜ小学校で当事者対象に説明会をする前にここまで再編の話が具体的に決まっているのか疑問。教員の負担がどうのとか、データはないけど不登校問題に複数学級のほうがいいっぽいとか説明されても本当にそう？それだけの理由で子供と保護者にこんな精神的不安や負担を与えるの？と疑問しかわかなかった。再編に対象となる子供がいる家庭もそうでない家庭も関係なくとった校内の雑なアンケートを、くるっと適当にまとめてメリットもあるけどデメリットあるよねとデメリットだけ強調されて見せられても何も納得できなかった。どれもこの人達にとっては他人事だから、仕事の一環として真剣に考えてはいないんだなということだけ伝わった。他の地区ではもっと遠い距離を歩いて通学している子供もいるからスクールバス等を出すのは難しくある程度は仕方ないとの話もいただいたが,自分の子供が小さかった時に入学途中からそれまでの倍以上の距離を歩いて別の学校に通うことになるかもしれないと言われてもへぇ仕方ないねと受け入れられるのだろうか。それとも子供がいる市役所の職員は再編に関わってないのだろうか。説明会	再編に伴う通学距離の増大や慣れ親しんだ環境の変化がお子様に与える影響は大きいと認識しております。お子様や保護者の皆様の立場に立った配慮や支援策について、真摯に検討してまいります。

	に参加できたのは良かったが形だけのものにしないでほしい。	
年少 小学３年生 小学６年生	再編に係る方向性（素案）でのスケジュールですが長すぎると思います。質疑応答では、再編案作成から再編成決定までの期間は縮められるとの事でしたが、廃校になる事が決定しているのであれば、もっと最短の時間で調整していただいた方がいいと思います。廃校が決まっているのに、これからの入学者をいれるのはやめた方がいいと思う。（在校生が多い事によって、再編準備委員会での子供達のケアにも時間がかかると思うので）在校生に関しては編成後の学校を選択できるようにした方がいいと思います。	学校再編のスケジュールおよび在校生・今後の入学者へのご配慮について、貴重なご意見をいただきありがとうございます。いただいたご提案につきましては、検討の参考にさせていただきます。
小学１年生 小学３年生	方向性（素案）への意見・提案なし	-
年長	分割して再編案の検討とありますが、分割先の小学校は平方小、大石南小、平方東小から選べるのでしょうか？	具体的な選択肢については、通学区域審議会にて今後協議を進めていく予定となっておりますが、平方北小学校再編検討協議会では、平方小、大石南小、平方東小の全てが選択できる場合と、距離の近い近隣校のみ選択可能とする場合で協議を行いました。３校全ての近隣校を選択できる場合では、通学区域が広くなりすぎてしまうため、子供が下校の際に１人になってしまうなどの安全面の問題もあるといったご意見をいただいております。
小学５年生	「通学距離が 1.5km を超える児童への「バス等検討」は、いつ・誰の責任で・どの予算で検討されるのか。 特例措置として選択した場合でも通学距離が伸びるケースの安全対策はどう担保されるのか。	通学路の安全対策については、再編となった場合には、再編準備委員会などを設置し、検討を開始する予定でございます。
小学１年生	早急に学校編成を進めて欲しい。少数学級だけの学校は、なくていいです。	集団の中で多様な学びや社会性を育む観点から、適正な学校規模を早期に確保す

		ることは重要であると認識しております。行政手続きの部分はできる限りスピーディーに進めてまいります。

6. 地域住民アンケート全体と市の考え方（回答）

地区	意見・提案の詳細	市の考え方（回答）
学区内	令和２年から単学級であり、この先も複数学級なることはない。結果は見えてる。世の子供、人口が減っているから。これは、事実である。少数学級のよる、メリットは無い等しい。それは、他の学校は複数学級だからだ。単学級が正しいのであれば、単学級が世の当たり前になる。むしろ、子供の社会進出において、複数人との対人関係は避けられない。また、小規模な所に教員を割り振る事も、非効率である。人手不足にも直面している中で、わざわざ単学級を維持する事を逆行している。世の事実をみて単学級を廃止して、いなければ、この市の児童教育の崩壊をする。直ちに、再編すべき。中学校も、生徒数足りない為に、部活動が出来ない。それも複数の部活動。これは、単純に生徒が学校にいないからである。答えは出ている。早く、行動するべきだ。	子供たちの学びに望ましい学校規模の早期実現に向け、スピード感を持って検討を進めてまいります。
学区内	方向性（素案）への意見・提案なし	-
学区外	いまの再編案を撤回し、ぜひ平方北小を小規模校として残す方向で改めて検討してください。 理由①子どもの教育にとって少人数クラスはプラスの効果がとても高いと思うから②少年団など社会団体の活動の場を減らさないでほしいから③地域の防災拠点としていまでも重要なため④遠距離通学となる子どもに交通事故のリスクと負担を高めるため⑤子ども、保護者、地域にとっては何のメリットもないため。⑥保護者の長年の運動でせっかく建設された平方北学童が近い将来無駄になりかねないから。何卒よろしくお願いします。	小規模校の良さがある一方で、現在の平方北小学校は１学年１学級であり今後もその状態が続く見込みです。集団の中で切磋琢磨し多様な人間関係や社会性を育む環境の確保や集団活動の充実という観点から、学校規模の適正化が必要であると考えております。 子供たちにとって最適な教育環境を整えるとともに、地域への影響を最小限に抑えられるよう、慎重に検討を進めてまいります。

学区外	児童生徒の教育を受ける環境整備を最優先にして頂きたい。 教職員や地域の大人の都合については、耳を貸すことは必要だが、あくまでも優先すべきは、児童生徒の教育環境の向上です。 私のもとには、少しでも早く統廃合をして、子供たちの学びに望ましい学校規模にして頂きたいとの要望や相談が多数来ています。	子供たちの学びに望ましい学校規模の早期実現に向け、スピード感を持って検討を進めてまいります。
学区外	平方北小学校開放委員会の会長をしています。平方北小の施設(グランド、体育館)は地域に学校開放され、地域のスポーツ活動に利用されております。廃校になった場合でも施設利用の存続を希望します。また、北小の活動費として県の補助金を市経由で５万円を頂いており、除草作業、ワックス、トイレットペーパー、モップクリーニングや体育館の修繕等に利用させて頂いております。このような廃校だけでなく関連事業についても配慮していただけると幸いです。	再編となった場合には、学校開放施設の継続利用や関連補助金のあり方につきまして、地域のスポーツ活動やコミュニティ維持に支障が生じないよう、関係団体の皆様と丁寧な協議を進めてまいります。
学区外	今回の説明会を通じて市教委の北小廃校には道理が全く無いことが明らかとなった。 第一に、学校は地域のコミュニティの中心、防災拠点でもある。それなのに、北小の廃校ありきで、再編協議会という一部の人で決め、教育委員会が決定するというのは極めて異常な話だ。このままでは地域の衰退、過疎化がますます加速するだろう。市教委と再編協議会で決められる話で到底ない。こんなに大切な話を市役所の一部門で決められるのか？市長や企画財政部門の幹部も説明会を開き出席すべきである。上尾市のやり方＝再編協議会の前に広く市民に向けた説明会を開かないのは、以前の平方小の再編説明会での反対意見続出でその後、説明会は一切開かなくなったことを教訓として、一部で決めてそれを押し付ける非民主的やり方に転換したために他ならない。こういう姑息な押し付け方式のやり方は絶対に許されない。 第二に、市教委の示した学校適正化の規模は文科省の方針でなく、公共施設の縮小を進める総務省の方針だということが明らかになった。小規模校のデメリットとされる説明は、北小廃止のためのためにする理由づけに他ならないことも明らかになった。小規模な学校ならではの、児童一人	学校は児童生徒の教育の場だけでなく、地域の防災拠点でもあることは認識しておりますが、子供たちの教育環境の改善を最優先として検討しています。現在の平方北小学校は１学年１学級であり今後もその状態が続く見込みです。 集団の中で切磋琢磨し多様な人間関係や社会性を育む環境の確保や集団活動の充実 を実現するため、地域住民の代表や保護者の代表からなる再編検討協議会を設置しこれまで協議を重ねてまいりました。 また、適正規模（１２～１８学級）という基準は、学校施設更新計画策定時の市民アンケートや、文部科学省令の学

	ひとりに行き届いた教育という最大のメリットは、「クラス替えができない」などという「デメリット」を大きく上回る子どもたちへのプラスである。 第三に、今回の「再編」という名の北小廃校を子どもたちはどう考えるかをまったく聞かないで決定されたことを子どもたちに伝達するやり方は、子どもの権利条約に反する暴挙である。 以上３点の理由から今回の「再編」という名前を借りた北小廃校には反対する。提案は、平方北小学校はこれまで通り残すこと、教員の負担軽減を図りたいのであれば、上尾市の才覚で教職員の加配を行えばよいだけの話である。どうしたら地域に若い人たちが定着するか、新しい若い市民が増えるかは、どれだけ若い人たちが住みやすい、子育てしやすい街になるかがカギであろう。私自身が３０数年前に「子育てをするなら上尾で」という魅力を感じて転居してきた頃のような、魅力のある街づくりこそ求められている。教委という一部門ではなく市全体の検討結果としての回答を求めたい。	校教育基本法施行規則の標準（１２～１８学級）を参考に定めました。社会性の育成や切磋琢磨には一定の規模が必要であり、総合的に判断してデメリットの方が大きいと認識しています。 なお、市による教職員の加配については、財政上の問題や全国的な教職員不足から難しい状況です。少子化対策や子育て世帯に選ばれるような街づくりについては、全庁的に施策に取り組んでいるところでございますが、子供たちの適正な教育環境の確保に向け、市全体で連携しながら検討を進めてまいります。
学区内	何が決定事項で、何が検討中なのかが分かりづらかった。 再編になった場合は、学校を柔軟に選択できるようにしていただきたい。	貴重なご意見として賜ります。
学区外	７月２５日の説明会に対する意見 (1)「切磋琢磨」とは「広辞苑第３版」では「道徳や学問に勉め励んでやまないこと。また仲間どうし互いに励まし合って学徳をみがくこと。」とある。この概念は人間の内面の発達に関わる極めて重要な言葉であり、決して競争に打ち勝つことを目的にしていない。他者との励まし合いによって自己の「学徳」を磨くという自己の内面的な営為が「切磋琢磨」の意味である。競争に打ち勝つ事を目的としてはならない。上尾市教育委員会の奨励する「切磋琢磨」が、思想・信条の自由や子どもの意見権を認める立場に立つものかどうか、現在のところ上尾市教育委員会は述べていない。したがって、上尾市教育委員会推進の「切磋琢磨」、は子どもたちの中に激しい競争を煽ることになりかねない。これは「切磋琢磨」の本旨に背くものである。現状では上尾市教育委員会の推進する「切磋琢磨」は問題があると思う。平方北小学校は「適正規模」に満たないため	（１）ご指摘のとおり、「切磋琢磨」とは競争を煽ることではなく、子供たちが互いに励まし合い、高め合う行為であると認識しております。ある程度の集団の規模があることで、多様な考え方に触れたり、集団の中での社会性を育んだりといった、単学級では得られにくい教育効果も期待できると考えております。 （２） 小規模校ではいじめの早期把握がしやすいという強みを認識する一方で、人間関係が固定化した際の回避策としてク

	「切磋琢磨」が生じにくいと決めつけ、「切磋琢磨」が生じやすくなるよう平方北小学校を廃校にして、平方北小学校の児童を他の小学校に転校させることには反対である。「離れ孤島でただ一人の児童には『切磋琢磨』の機会は無い」との考えを持っておられる方もあるようだ。ただ一人の児童であっても、そこには少なくも一人の教師が居られる。その教師の手厚い優れた指導さえあれば、当該の児童と世界中の子どもたち・経験豊かな先人たちとの交流が生まれる可能性がある。離れ孤島でのただ一人の児童にとっても、「真の意味での『切磋琢磨』」の機会が大いにあるのではないだろうか。「切磋琢磨」を理由にして「適正規模」の学校に転校させなくとも良いのではないだろうか。 (2)「『適正規模』に満たない小規模学校でいじめが生じてもクラス替えができずイジメに対応できない。『適正規模』の学校ならばクラス替えができるのでイジメに有効に対応できる。それ故に『適正規模』に満たない平方北小学校は廃校にすべきである。」と、上尾市教育委員会は述べる。しかし、知り合いの男性は中学生時代に「適正規模」に十分に達している中学校で激しいイジメにあった。その事がキッカケとなって、イジメの加害者との間で殴り合いの喧嘩に発展した。私はイジメの発生を早期に把握できなかったことがこの問題の主因だったと思う。イジメが発生した時、その事実を可能な限り早期に把握することが何よりも重要であって、クラス替えによってイジメ問題に対応するというのは二の次・三の次の問題である。イジメというものはクラスの枠を超え、学年の枠を超え拡大するのである。適正規模の学校よりも、小規模学校の方がイジメの発生を早期に把握できる利点があるのではないだろうか。このような利点の乏しい「適正規模」の学校に平方北小学校の児童を転校させる理由ーが見当たらない。従って、上尾市教育委員会の提案には反対である。上尾市教育委員会はイジメが発生した時、クラス替えが有効だと考えているようだが、イジメが発生した時に年度途中でクラス替えを実際に行なっているのだろうか。イジメ発生時にクラス替えを行なった事例があっての提案だと思うが、その事例は何件だろうか？具体的に示さないと提案の具体性がなく、机上の空論ということになる。	ラス替えといった環境の変更が有効な手段の一つとなる場合もございますので、今回の説明会では適正規模校になることへのメリットの一例として挙げさせていただきました。 （３） 全国的な少子化の流れもあり、現在大規模となっている学校も数年後には準適正規模校となり、学級数も減少する見込みです。よって、大規模校については児童数の減少推移を見守りつつ、個別の課題が発生した場合には対応してまいります。 （４） 1クラスあたりの人数につきましては、国の法律に基づき、３５人以下となっております。 （５） 同アンケートにて、学校規模適正化のメリット、効果、期待することを伺ったところ、６割を超える保護者が、クラス替えなどができるようになることを期待する結果であったほか、学校再編で得られるメリットは低い、または特にない、学校再編をする必要がないと回答した方は１割未満となっておりました。このことから、児童生徒の減少による学校規模の小規模化については、対策を講じる必要のある課題として広く捉えている

	(3)上尾市教育委員会のホームページによれば市内の２２の小学校中、１３もの学校で「適正規模」を超えている。これは上尾市教育委員会がこの状況を長年放置してきた結果である。　「適正規模を超える小学校」で学ぶ小学生たちは好ましくない教育環境で学校生活を送っているのだ。その数は「適正規模」に満たない小規模校で学ぶ小学生の数を遥かに超えるのだから、教育環境を全力で整備する上尾市教育委員会としては、「適正規模」を超える学校を複数の学校に分割して「適正規模」の学校とすべきである。これは喫緊の課題であり、平方北小学校を廃校にする暇なんかないのではないか。 (4)上尾市教育委員会は「適正規模」をクラス数で判断しているが、1クラスあたりの人数「クラス規模」も考慮して欲しい。その際に、本田由紀(東大教授)「『日本』ってどんな国」(ちくまプリマー新書、第一１１５頁)及び教育政策研究所「学級規模が児童生徒の学力に与える影響とその過程」を是非参考にして欲しい。 (5)平方北小学校の児童の保護者の６６%が平方北小学校の廃校に反対している。そうである以上、平方北小学校の廃校には問題が多すぎる。平方北小学校を廃校にするのは反対である。そもそ平方北小学校の児童にとって、他校に移されることに何も良いことがないのだから。	ことがうかがえるものとなっております。
学区外	廃校に反対。 ①小中学校は、生徒の学習の場だけでなく、地域の防災拠点にもなっており、その役割は増している。 ②学校教育は、今後、少人数学級で一人一人の生徒に教師の目が届き、不登校などの対応を十分に行える体制が求められている。大規模化すべきではない。 ③北小は、これまでも模範となるようなウェルビーイングを重視した充実した教育を行ってきた。そういう伝統を生かすべきで、廃校にすべきではない。 ④日本の未来を担うのは子ども達。子育てと教育にこそ力と予算を投入して人材育成していかなければ、日本の将来はない。 ⑤一旦、廃校にすれば、元に戻すことは困難になる。平方の若者人口はますます減少し、地域産業の担い手も減少し、地域の活力は失われ、平方地域全体が衰退する。子ど	防災拠点としての役割や少人数教育の強み、地域の活力維持といった学校の持つ多面的な重要性を重く受け止め検討してまいります。

	も達も安心して子育てできる地域にするには、小中学校の存続は絶対に必要だ。	
学区外	私は、北小学校の廃校について、反対の立場からだけではなく、平方地域の未来を考える一人として意見を述べさせていただきます。正直に言えば、すでに廃校ありきで話が進んでいるように感じています。今さら意見を述べても、結論が変わることはないのかもしれません。それでも私は、この思いを伝えずにはいられません。なぜなら、一度失われた学校は、二度と元には戻らないからです。学校は、子どもたちが学ぶ場所であるだけではありません。地域の人々が集い、交流し、世代をつなぐ大切な場所です。そして、災害時には地域住民の命を守る防災拠点という重要な役割も担っています。もし廃校となり、防災拠点として建物だけを残したとしても、日常的に使われない施設は老朽化が早く進みます。人が利用し続ける建物よりも傷みやすくなり、いざ災害が起きたときには安全に使用できない施設になってしまう可能性もあります。これからの日本は、さらに少子化が進むことは避けられません。だからこそ、学校を減らすという発想ではなく、一人ひとりの子どもに目が届く教育環境を整えることが必要ではないでしょうか。20 人程度の少人数学級が当たり前になる時代だからこそ、先生が子ども一人ひとりと向き合い、不登校やさまざまな悩みを抱える子どもたちにも丁寧に寄り添える学校が求められると私は考えています。北小学校を廃校にし、学区を近隣校へ分割するのではなく、地域全体の学区を見直し、それぞれの学校が適正な規模となるよう再編する方法もあるのではないでしょうか。「適正規模」とは、単に児童数を国の方針に沿った人数にそろえることではありません。子どもたちが安心して学び、先生が一人ひとりと向き合える環境をつくることこそ、本当の意味での適正規模ではないでしょうか。私は、子育てと教育こそ、今以上に予算を投入すべき分野だと思っています。未来をつくるのは子どもたちです。教育への投資は、決して無駄な支出ではなく、地域の未来への投資です。そして何より、一度廃校にした学校を、再び学校として活用することは極めて困難です。私が最も心配しているのは、平方地域の未来です。このままでは若い世代は減り続け、地域文化や産業を	子供たちにとって望ましい教育環境を整え、多様な意見に触れながら切磋琢磨できる機会を確保するため、再編検討協議会を設置し検討を重ねてまいりました。再編検討協議会では、大石方面を含めて児童を集めるシミュレーションも行いましたが、適正規模には至らないという結果となりました。また、平方地区全体においても今後児童数は徐々に減少する見込みです。 今後につきましても、子供たちの将来的な教育環境の向上を最優先課題として、丁寧な検討を進めてまいります。

	支える担い手も減少し、地域の活力は失われていくでしょう。現在の市政からは、平方地域の人口を増やし、子育て世代が住みたいと思えるような具体的な施策が十分に見えてきません。人口が減ることを前提に学校を減らすのではなく、人口を増やし、子育て世代を呼び込み、地域を元気にするために学校を生かすという発想が、今こそ必要ではないでしょうか。私一人の意見で結論が変わるとは思っていません。それでも、何も言わずに学校がなくなってしまうことだけは、どうしても受け入れられません。学校を残すことは、ただ校舎を残すことではありません。子どもたちの未来を守ること。地域の絆を守ること。そして、平方地域の未来を守ることです。どうか「廃校ありき」で議論を進めるのではなく、「学校を生かして地域を発展させる方法はないのか」という視点でもう一度考えていただきたいと思います。学校を中心にさまざまな施策を進め、子育て世代が集まり、地域文化や産業がいきいきと発展する平方地域を次の世代へ引き継いでいく。そんな未来を、私は心から願っています。	
学区外	1，私は、閉校は、いたし方ないと考えています。 2，平方北小学校の通学区域を大石南小学校、平方小学校、平方東小学校に分割する案には賛成します。 3，閉校後の校舎、グランドの使用について。 各小学校、各中学校には学校開放運営委員会が設けられ、各種のスポーツ等の活動をおこなっています。 閉校後において学校開放の運営は、どのようになるのでしょうか。他の学校に移るにしても、どこも一杯で移ることができません。そこで、学校は閉校するにしても、是非、いままでどおりに無料で施設を使わせてください。なにしろ、体育館にエアコンを設置し、また、学校開放のトイレも、市内の他の学校に先駆けて洋式化して、校舎に多額の費用をかけていますので、これらの費用が無駄になってしまいます。そうすると、上尾市の担当部署は、引き続き「上尾市スポーツ振興課」が適当ではないでしょうか。 また、このことは令和４年（2022 年）から、今にも続く「上尾市スポーツ健康都市宣言」にも合致するものと確信しています。	再編となった場合には、地域住民の皆様の活動の場が維持できるよう継続的な利用方法や管理体制について丁寧に検討してまいります。

学区外	「子どもたちの学びに望ましい学校規模の実現」を目的とする平方北小の再編＝廃校に反対します。平方北小を廃校にするのではなく、小さい規模の学校の良さを生かして平方北小の教育をさらに充実させる施策を行うべきです。 例、教職員の加配を行う。学級定数を２０人程度として少人数学級の教育的効果を活用する。地域の協力を得て、豊かな自然や地域文化を生かした教育を行う。そのため地域住民が使える研修施設などを併設する。全国では、このようなとりくみで小さい規模の学校の魅力をアピールしている例が多くあります。 理由 1.上尾市が勝手に決めた「子どもたちの学びに望ましい学校規模」は少しも「望ましい」ものではない。現在の教育課題を踏まえていない。いじめなどの問題はむしろ大きい規模の学校で深刻な状況になっている。大きい学校では児童生徒同士の交流、先生との関係が希薄になっていることが問題になっている。再編の必要性の根拠が説明できない。 2.再編計画の検討を通して、教育的な検討がされていない。説明会の中で、「特別支援学級」の子どもたちの教育条件が悪化することの懸念が出されていたが、何ら検討が行われていないことがはっきりした。再編検討協議会で通学区域の変更の検討もされたが、学級数の数合わせの議論に終始し、子どもの教育条件がどう変わるのかという検討はされなかった。上尾の学校教育の課題はいじめや不登校など問題が噴き出ている。これらの教育課題をどのように解決していくのかということこそ重要だ。 3.まちづくりの面からも問題が多い。学校は地域のコミュニティの核と認めながら、学校をなくした場合の対応が全く検討されていない。学校が住民の交流の場となっていること、避難所の機能、をどうするのか、説明会の中でも全く触れられていない。上尾市の街作りは中心部に施策が集中して、今回再編の対象となっている平方や尾山台瓦葺、畔吉・領家などの周辺部分を蔑ろにしている。この再編計画も周辺の環境をどうするのかということより、中心部の学校さえよければというものに見える。学校のない地域は魅力を失う。説明会に参加して、問題が明らかにされていないこと、計画の発信者である市長が一度も顔を出さないこと、はじめの段階から住民や保護者の声など地域を置き	子供たちにとって望ましい教育環境を整え、多様な意見に触れながら切磋琢磨できる機会を確保するため、まずは子供たちの教育環境の改善を最優先として検討しています。 いただいた教育課題や避難所・コミュニティ機能維持等の懸念については関係部局と連携して丁寧な検討を進める方針です。

	去りにした進め方に疑問を感じる。学校の問題はまちづくりの課題である。市長も出席する説明会を開催することを求める。	
学区外	地域説明会では大変お世話になりました、私は平方北小学校を存続してほしいと願っています。つまり素案に対しては反対です。そもそも適正規模に合わせる必要性を感じません。1つの学校が地域からなくなるというのは大変重要なことです。現在の平方北小の良さを具体的に話し合う場がもっと必要でした。説明会で出されたような意見がもっと協議会でも検討されるべきでした。市が示した“適正規模”が前提となっているために当然このような方向性が出てくることは、協議会を実施する前からわかりきっていたことです。協議会の方々の中にもその点を懸念されていたご意見が出ていたと思います。“単学級でクラス変えができない”“校務分掌が多くて教員の負担が大きい”などは、もっと掘り下げて意見や思いを出し合ってほしかったです。そもそも市から“小さい学校は存続してはいけない”と方向性を初めから出しているようなものです。教職員や保護者から素案に対して反対の声が出なかったというのは、市の適正規模に合わないのだったらそれにそってやるしかないという気持ちだったのではないでしょうか。つまり今さら反対しても無理かな。という気持ちにさせてしまったことです。もちろん、積極的に賛成の方もいらっしゃることでしょう。そんな方々とも含めて、さまざまな意見、さまざまな立場で、話し合う場がもっと早くに欲しかったです。現在の大石南中でも協議会が始まりましたが、同時進行で保護者、教職員、地住を交えた地域説明会を開催してほしいです。	上尾市では、学校施設更新計画策定時の市民アンケートや、文部科学省令の学校教育基本法施行規則の標準（１２～１８学級）を参考に適正規模を１２～１８学級と定めました。平方北小学校に関する学校規模の適正化について協議し、子供たちの学びに望ましい学校規模を実現するために再編検討協議会が設置されました。そのため、再編検討協議会委員の皆様には適正規模についてご説明したうえで、再編について協議していただいた次第でございます。大石南中学校再編検討協議会においては、現在協議中であるため、地域説明会の開催予定はございませんが、協議の状況等について議事録やニュースレターで周知を行ってまいります。
不明	もともと学校統廃合そのものに反対です。全国どこでも進められている統廃合、本当におかしいと思います。少人数学校（学級）こそ、子ども達が健全に育つでしょう。この計画は止めるべき‼	小規模校は人間関係の固定化や多様な価値観に触れる機会の減少など教育指導上の課題が生じる可能性があるため、再編を検討しております。
学区外	子供達が平方北小の出身校です。団地からの通学で、近いし環境も良く無くして欲しくありません。	貴重なご意見として賜ります。
学区外	・一教室の人数が少ない方が、生徒にとっても先生にとっても望ましいと思う。	学校を運営するために教員が分担して行う仕事である校務

	・今、先生の成り手が少ないのは、生徒数が多いため問題が多く、疲労から倒れていく例を見ているからではないか？！	分掌は、学校規模の大小にかかわらすどの学校も一定量ございます。教員１人当たりの校務分掌の担当数は市内の学校の平均では 1.9 となっていますが、平方北小学校では教員１人当たり校務分掌の担当数が 3.1 であり、教職員の負担が大きくなっております。学級数が多い学校は教職員の配置人数が多いため、校務分掌を分担して行うことができますが、学級数が少ない学校は配置人数が少ないため、一人当たりの校務分掌が多くなってしまうという課題がございます。
学区内	私は基本的に学校統廃合は「賛成」の立場です。北小は防災拠点として再利用し建物は学童クラブや地域クラブの活動拠点として再利用すればよい。 そもそも「小規模校」NG？無駄に大きい小学校を分解しろ！駅前にあんなにデカイ小学校は必要か！	大規模校については今後の児童数推計により解消が見込まれています。再編した場合の施設利用につきましては防災や地域活動の拠点等の役割を代替できるよう地域の方々と協議を行ってまいります。
学区外	平方北小学校を廃校にすることに反対です。その理由として、 ①私は「平方北小学校の再編に関し、地域住民、保護者への対面による説明会の開催を求める請願」を上尾市教育委員会へ提出し、六月定例会で請願が採択されました。説明会は、7 月 12 日と 14 日に在校児童、未就学児の保護者向けの説明会、7 月 25 日に地域説明会が行われました。何故地域説明会が今回まで行われなかったのかを明らかにして欲しい。 ②地域説明会では平方北小学校を廃校することによる問題が多数出されました。教育委員会の担当部署だけでなく、答えられる部署の方の出席を含め再度説明会の開催を求める。特に上尾市長の出席を求めます。	説明会の開催につきましては学校施設更新計画改定後の議論や素案作成の準備を進め、今回提示できる段階での実施となりましたが、いただいたご意見や通学区域審議会での審議を踏まえて再度説明会を開催する予定であり、再編に伴う避難所等の役割につきましても関係部署と協議を重ねてまいります。

	③熊本地震で大変な被害が出ています。災害時の避難場所として学校は廃校でなく残すべきです。エアコン完備の体育館、給食施設が活用できます。上尾市の災害対策の中に市内小中学校の施設活用を位置づけるべきです。	
学区外	学校の統廃合により、子ども達は荷物をたくさん持って遠くまで登校しなければならず、特に低学年は児童にとっては大きな負担になると思います。又、学校がなくなることで地域の力も薄れてしまうのではないかと心配しています。1クラスの人数が少ない学校には、先生の目が一人ひとりに行き届きやすく、子ども達に問題や困りごとがあった際にも早い段階で対応できるという良さが有ります。私の孫は他県の小学校に通っており、1年生1クラスでしたが、運動会などの学校行事も先生方がさまざまな工夫をされ、とても盛り上がっていました。小規模校だからこそ実現できる魅力も有ると感じています。学校をなくすことは比較的簡単かもしれません。しかし学校を地域に残し、その特色を生かしながら地域を活性化して行くことに、ぜひ力を注いでいただきたいと思います。	小規模校の良さがある一方で、現在の平方北小学校は1学年1学級であり今後もその状態が続く見込みです。集団の中で切磋琢磨し多様な人間関係や社会性を育む環境の確保や集団活動の充実という観点から、学校規模の適正化が必要であると考えております。 子供たちにとって最適な教育環境を整えるとともに、地域への影響を最小限に抑えられるよう、慎重に検討を進めてまいります。
学区外	・少人数　1学年で1クラスでも生徒さんに目がとどきやすく先生の負担も少ない ・地域でみなさんが集まったり、地域の少年団がスポーツをする拠点がなくなるのはこまります。 ・防災の避難場所としての役割もあるのでは	少人数学級におけるきめ細かな指導の利点に配慮しつつも、社会性の育成や大人数による多様な学びの機会を考慮して適正規模化を進めておりますが、地域コミュニティ・防災等の代替機能の確保に向け、引き続き丁寧に協議を重ねてまいります。
学区外	「再編」ではなく廃校だと思う。小規模校でも残すべきだ。 ①子どもが遠方まで通うことになる ②災害時の避難場所となる学校は必要 ③卒業生は母校がなくなる ④小さい学校でこそ1人ひとりが輝き伸びる教育が実現できる ⑤「適正規模」などいう基準は上からの押しつけだ	子供たちの教育環境改善を最優先とし、少人数学級の利点はございますが、社会性育成等の観点から計画的に適正規模化は必要であると考えます。

学区外	少人数校を残す	貴重なご意見として賜ります。
学区外	学校なくさないで下さい	貴重なご意見として賜ります。
学区外	西上尾第二団地は高齢者指定団地です。平方北小は防災公共施設です。住民の命を守る大切な拠点になっています。平方北小をなくさないでください。 再編検討は決定していないとのこと、児童・現場の先生・地域の包摂的な意見を聞いてください。ていねいな対話を希望します。	今回の説明会でいただいた多様な声を今後の検討の参考とさせていただくとともに、引き続き丁寧な対話と協議を重ねてまいります。
学区外	文科省は適正規模は設けていない。なぜなら全国にある小・中学校の大部分は1学年1クラスである。クラス替えができないから廃校対象校とはしていない。上尾の「適正規模」は小規模校はデメリットが多いと言っているが、諸外国の小学校の多くは20～25名以下である。（1クラス）平方北小が1クラスのため、廃校にしようとしているが、平方小は1年～4年は単学級である。5～6年は2クラスだがここも小規模校として廃校対象とするのか。平方北小といい平方小までも廃校は許されない。学校は地域によって核となる存在である。平方北小に通う障害を持っている児童の登校はどう補償するのか。他の三校に分散すれば通学時間が大幅に増えて非常に困難になる。再考を求める。	国においては、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」には、クラス替えができない規模について「学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある」としています。1クラスあたりの人数につきましては、国の法律に基づき、３５人以下となっております。また、平方小学校については現時点では学校施設更新計画基本計画における再編検討の要件を満たさないため、再編の対象ではありません。 特別支援学級は通常学級とは学級編制や教員配置基準が異なり、規模にかかわらず全校設置を基本に必要な学級数を確保する方針です。

学区外	小規模校ほど今大切な学校だと思います。子ども達をとりまく社会環境などの変化、家庭的困難などによる問題をかかえてしまう子ども達も増える中、不登校児、生徒の数の増加、特に上尾市も年々増えその子らの対応についても不十分小規模校ほどこの様な実態にきめ細やかな教育が与えられると思います。先生が忙しい中、1人1人をよく見て対応できる良さがあります。子ども達の成長や発達を補償するためには学校規模数に合わせるのでなく、先生の目が行き届くことで学習面や生活面の状況を理解しやすく、問題がおきた時など対応が早くできるし安心して通学できる学校になると思います。まず第一に大切なのは、子ども達が安心して生活できる学校作りです（40年以上前平方北小で教員をしていました）	小規模校の良さがある一方で、現在の平方北小学校は1学年1学級であり今後もその状態が続く見込みです。集団の中で切磋琢磨し多様な人間関係や社会性を育む環境の確保や集団活動の充実という観点から、学校規模の適正化が必要であると考えております。 子供たちにとって最適な教育環境を整えるため、慎重に検討を進めてまいります。
学区外	教育効果を考えると小規模だから一律廃校というのは反対。子供が自分の生活圏の中で勉強できるというのは一番の安心だと思う。	子供たちの教育環境の改善を最優先と考え、平均1.5km以内となる通学距離や安全面に配慮しながら、通学区域審議会にて慎重に協議を行ってまいります
学区外	再編の方向性には反対です。	貴重なご意見として賜ります。
学区外	学校規模が大きくなると「いじめ問題が多くなる」そして不登校になる傾向があります。そしてこの問題が一向に改善されず、近年増加する状況です。この改善を図ることは学校、教育の一番の課題であると考えてます。 小規模校、小規模学級は子ども同士の交流関係が密になり先生の目が1人1人に行き届いて、集団としていじめ問題が起こりにくい力を持つようになると思います。よって、再編の方向性には反対です。	小規模校の良さがある一方で、現在の平方北小学校は1学年1学級であり今後もその状態が続く見込みです。集団の中で切磋琢磨し多様な人間関係や社会性を育む環境の確保や集団活動の充実という観点から、学校規模の適正化が必要であると考えております。 子供たちにとって最適な教育環境を整えるため、慎重に検討を進めてまいります。

学区外	・地域（住民）説明会の開催が遅い。再編検討協議会と同時期に説明会を開くべきと思います。結果報告を聞くだけで、住民の意見が反映される場がない。 ・保護者の 60%以上が「小規模でいい」とのアンケート結果があるのになぜ、統廃合するのか？ ・上尾市は、学校規模適正化方針として、小学校・中学校ともに「12 学級以上 18 学級以下」に固執していますが、その理由がわかりません。保護者側の「小規模校」でいいと言う声を無視していいのか。 ・小規模校のメリットを最大限に生かす方法、デメリットの解消策、緩和策を積極的に検討することが大切と思う。 ・学校は教育的観点と同時に地域コミュニティの核です。防災や地域住民の交流の場として、「まちづくり」と密接な関係をもっています。小学校がない地域に若い世代は移住してきません。それは地域の過疎化に拍車をかけることになります。「上尾のまちづくり、どうするのか」という視点からも考えていただきたいと思います。 ・以上の理由から、平方北小学校をなくすことに反対します。	・地域説明会については、再編検討協議会で協議中であり、説明会を開催する段階でなかったため開催しておりませんでした。再編検討協議の状況等について議事録やニュースレターを市 HP や回覧で周知を行うとともに意見を反映できる仕組みを検討してまいります。 ・教育環境に関するアンケート調査の結果として、小規模校のメリット、デメリットについてどちらが大きく感じるかについて、保護者は６割の方が小規模校のメリットを感じておりましたが、学校規模適正化のメリット、効果、期待することを伺ったところ、６割を超える保護者が、クラス替えなどができるようになることを期待する結果であったほか、学校再編で得られるメリットは低い、または特にない、学校再編をする必要がないと回答した方は１割未満となっておりました。このことから、児童生徒の減少による学校規模の小規模化については、対策を講じる必要のある課題として広く捉えていることがうかがえる結果となっております。 小規模校の利点や地域コミュニティ・まちづくりへの影響に関するご懸念につきましても今後の検討の参考とさせていただきます。

学区内	地域（自治会等）では、学校統廃合問題について議論がなされることがほとんどありません？なぜなのでしょうか？関心がない？区長や委員（協議している）からは、「もう決まっている」「一方的に進めている」等の声が聞かれます。こうした重要事項に対してなぜ「住民自治」が機能しないのでしょうか。 説明会に出席したのですが、意見を言っているのは全員反対している方々でした。意見の内容はほとんどはじめて聞くことばかりで、地域の人たちはほとんど知らないことばかりです。 自治会の役員、地区内の市会議員も参加していません。 （議員さんは一人いました）　地域を置き去りして、こうした進め方をすることに疑問を持ちます。賛成、反対以前の問題だと思います。	再編検討協議会には、地域の方も地域の代表としてご参加いただき議論をしていただきました。いただいたご意見を参考に自治会に対する説明会の開催について検討させていただきます。
学区外	私は平方北小の開校時に着任した元教員です。 当時は平方東小と同時期の開校だったと思います。丸山公園の造成中で社会科の「働く人」の単元で公園造成の働く人の現場見学に児童を引率したことを思い出しました。 近ごろ児童数の減少に伴い、学校再編が各市町村で行われているとの話題を耳にして再編の為に閉校になるなら平方東小だろうと思っていました。なぜなら北小の方が校庭は広く、学区も広く平方地域に根ざした活動が多いからです。卒業生で農園を営む方も複数おられると思います。立地的にも地域に根ざしていると思われるところにあります。「地域に根ざした学校」という意味では北小の方が東小よりもずっと深まりがあると思われます。 市の再編計画の方針は存じませんが、「地域を大切にする」ということでは北小を廃校にすることは後のちに禍根を残すことになるのではと思います。児童は地域に育てられる面が大きいです。子供達のために、地域の方々との懇談を深められよりよき再編になることを願っております。	ご意見を真摯に受け止め、地域の方々と引き続き丁寧な対話と協議を重ねてまいります。
学区外	一番は生徒と親の意見をしっかり聞いているのかということが疑問です。小さい学校はダメということはない。むしろ小さい方が全体が見えていいと思う。北小は避難所になっている。地域防災からも残して欲しい。学校は地域の中心。なくなってしまったら町がなくなってしまう。特に若い人が地域にこなくなって崩壊してしまう。もっと教育に	子供に再編の是非について問う意見聴取を行うことは、子供に再編の是非の責任を負わせることになると考えており、実施していません。再編が決定した場合には、子供た

	お金をかけることをして欲しい。子どもを大事にすることに力を入れて欲しい。	ちへ意見聴取を行い、フォロー体制を整えてまいります。
学区内	・なぜ小規模校ではいけないのか ・廃校は地域の廃墟につながります ・少人数学級の方が教育環境は良いではないか ・大勢いると「落ちこぼれ」など出やすい ・学童保育も充実をしてほしい	少人数学級におけるきめ細かな指導の利点に配慮しつつも、社会性の育成や大人数による多様な学びの機会を考慮して適正規模化を進めておりますが、学童保育の充実や地域コミュニティ・防災等の代替機能の確保に向け、引き続き丁寧に協議を重ねてまいります。
学区外	●平方北小をなくさないでください。 意見１　学びに望ましい学校規模を 12～18 学級としていますが、これは、教育的意味ではなく、国が統廃合の補助金を出す基準であることをまず、指摘しておきます。 ①公立小中学校の施設設備に対する国の補助金（負担金）について定めた「義務教育諸学校等の施設費の国庫負担金等に関する法律施行令」（1958 年）の第 4 条　法第 3 条第 1 項第四号の適正な規模の条件の中では、学級数が 12～18 学級までと規定し、法第 3 条第 1 項第四号を以下のように説明している。 「義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律」（1958 年 4 月 25 日）で公立の小中学校を適正な規模に統合するための経費 2 分の 1 を国が負担することを決めている。その適正な規模の条件を法令で「12～18 学級」と定めています。学校を統合する場合に学校の規模を「12～18 学級」とすれば、国が建築費の 2 分の 1 を負担するというものです。 ②以上のように、「12～18 学級」は、学びに望ましい学校規模ではないということは明らかです。 ③適正規模というのは、国が補助金を出す基準です。 ④学びに望ましい適正規模としての「12～18 学級」は、国は定めていません。定めているのなら、具体的に教えていただきたい。 ⑤今回の説明のためのパンフでの 3 枚目の裏の「子供たちの学びに望ましい学校規模」の説明は、以上のように読む	意見１について ①～⑥上尾市では、文部科学省の省令、市民アンケートや学校アンケートの調査結果、学校施設の配置状況、今後の児童生徒数の動向から、子供たちの学びに望ましい学校規模として１２学級以上１８学級以下と定めました。この学校規模は十分に上尾市における地域の実情を鑑みた結果であると考えております。 意見２について 小規模校の良さがある一方で、現在の平方北小学校は 1 学年 1 学級であり今後もその状態が続く見込みです。集団の中で切磋琢磨し多様な人間関係や社会性を育む環境の確保や集団活動の充実という観点から、学校規模の適正化が必要であると考えております。子供たちにとって最適な教育環境を整えるため、慎重に検討を進めてまいります。

	人を惑わすミスリードの説明になっています。 ⑥国は、教育的観点から適正な学校規模を定めてはいません。適正な学校規模は地域の実情によって異なり、全国一律ではないからです。 意見２　少人数学級こそが、今必要です。 ①WHO では、100 人以下の学校を推奨しています。一人一人の児童・生徒に目の行き届く教育環境をつくることにこそ、力をいれるべきです。大規模校をどうするのかの方針も示されていません。 ②コールマン報告（1966 年）では、小さな学校ほど、子どもの学校への帰属意識や愛着が強くなり、学習態度も能動的になることが実証され、教育効果が高いことを証明しています。 ③平方北小の前校長先生の教育の実践では、学力が大きく前進したとわざわざ埼玉県教育委員会が報告しています。少人数学級で一人一人の児童の行き届いた教育ができたからこそと思います。 ④小規模校のデメリットとして、クラス替えが全部又は一部の学年でできない。としていますが、いじめなどの対策は、徹底的な関係者同士の話し合いこそが解決のカギだと思います。クラス替えすれば解決すると安易にとらえない方がいいと思います。 意見３　子どもの権利条約は生かされていますか。 子どもにかかわることは、まず、子どもたちの意見を聞くこと。これが子どもの権利条約の基本です。平方北小の子どもたちに十分意見をきいたのでしょうか。 意見４　地域の意見をよくきいて行政を行ってください。 今回やっと説明会を開催されました。午後の会場では、平方北小をなくさないでの声がほとんどで賛成の意見は皆無だった。これを教育委員会、市は、どのように受け止めますか。また、教育委員会がとったアンケートでも 60%を超す保護者は平方北小を残してほしいと回答しています。小学校は、地域住民の交流、文化のよりどころでもあり、また、緊急の災害の際は、防災の拠点にもなります。今まで、平方北小を支えてきている近隣住民の声もよく聞いて行政を行っていただきたい。強く要望します。以上、意見をします。	意見３について 再編検討協議会において、子供への意見徴収の実施時期については、何もわからない時点で不安を与えてもよくないので慎重に検討すべきである。 子供へ意見を聞くのも大切だが、結果の伝え方やアフターフォローを丁寧にすべきである。といった意見がございました。再編が決定する前に、子供に再編の是非について問う意見聴取を行うことは、子供の不安を煽ることにつながり、子供に再編の是非の責任を負わせることになるため、再編の是非を問うような子供たちへの意見聴取は予定していません。 なお、再編が決定した際には、その伝え方やアフターフォローのために、子供たちへ意見聴取をして、子供たちのケアを丁寧に行ってまいります。 意見４について ・保護者向けの説明会では、平方北小学校の学区にお住いの未就学児保護者や現役保護者から早急に再編をしてほしいというご意見も多くいただいております。本説明会のご意見について、今後の検討の参考とさせていただきます。 ・教育環境に関するアンケート調査では、小規模校のメリット、デメリットについてどちらが大きく感じるかについ

		て、保護者は６割の方が小規模校のメリットを感じておりましたが、学校規模適正化のメリット、効果、期待することを伺ったところ、６割を超える保護者が、クラス替えなどができるようになることを期待する結果であったほか、学校再編で得られるメリットは低い、または特にない、学校再編をする必要がないと回答した方は１割未満となっておりました。このことから、児童生徒の減少による学校規模の小規模化については、対策を講じる必要のある課題として広く捉えていることがうかがえる結果となっております。

学区外	平方北小学校は、6学級で小さい学校ですが、小さい学校なりの良い点がたくさんあります。市では、少人数では切磋琢磨できない、いじめなどの問題が解決できないなどを挙げていますが、一人一人の子どもの様子がよく見られ、豊かな教育ができ、子どもを伸ばしていけると思います。反対に、大規模校では現在いじめや問題も多くみられ、子どもにとっては丁寧な教育ができず、不幸な状態です。小規模校はそのまま残し、大規模校こそ解消すべきと思います。教師の負担が大変との事でしたが、平方北小検討協議会でも校務分掌は減らせると意見を言われた方がいましたが、教員間で話し合い校務分掌を相談し減らしていく事もでき、市とも相談し職員の人数を増やすこともできるのではないかと思います。学校が作られる当初は、地域の多くの方々の協力や努力があり出来た事と思います。そういう方々の思いを大切にしてください。地域から学校が無くなることは、地域の文化がなくなることです。学校が無い地域は、人が住まなくなり地域が寂れます。上尾市周辺の学校が無くなれば、上尾市自体が寂れて行きます。現に、上尾市に引っ越しを考えていた方が学校の統廃合を知り、止めて他の所へ引っ越すと言う事です。4～50年位前は「子育ては上尾から」という言葉を良く聞きました。そういう希望のある街にしていきたいです。先日の再編に係わる説明会では、子どもの意見は聞かないという話でしたが、必ず子どもの意見を聞いてください。子どもにも人権があり、それを無視してはいけません。意見を聞いて子どもに責任を負わしてはかわいそうという事はありません。それは大人の身勝手な考え方です。3つの学校に分かれて通う子ども達は、心の大きな負担を抱えます。丁寧に聞き取って下さい。前回の説明会では質問に答えられていないことが多く、時間も足りず、もう一度説明会を開いてください。皆様が良く理解した上で、やって行って下さい。よろしくお願い致します。	校務分掌は学校を運営するために教員の皆様が分担して行う業務であるため、学校規模の大小に関わらず一定の業務量を負担することになります。小規模校では配置される教職員数が少ないため一人当たりの分担量が多くなる構造にあります。さらに全国的な教員不足による未配置なども問題となっているため、分担軽減を目的とした新たな教員の加配は困難な状況です。 再編に伴い子供たちが抱える不安や心の負担につきましては、市としても非常に重要な課題と捉えております。子供の立場に立った丁寧な配慮を行い、安心して新しい環境へ移行できるよう努めてまいります。 今回の説明会でいただいた多様なご意見や、今後の通学区域審議会での審議内容などをしっかりと加味した上で、再編案の作成をし、再編案についてご意見をいただく機会を設けたいと考えております。
学区外	①2021年に発表された上尾公共施設管理計画に対して、市民からの意見を受けて凍結された統廃合計画を手法を変えてひとつひとつ廃校にして行く計画なので反対です。 ②望まれる学校規模とされている12学級以上18学級以下ということについてはメリット、デメリット両方あり、賛	・本計画は1万件を超える保護者アンケートや地域公聴会などの声を取り入れ、子どもたちのより良い教育環境づく

	否両論。結論を出せるものではないので学校を統廃合する理由にはなり得ない。 ③上尾市は 2050 年までに Co2 排出量、実質ゼロをめざす「ゼロ・カーボンシティ」宣言をしている。地球温暖化による大雨や猛暑が日本をはじめ世界でおきている今、環境に負担をかけずに持続可能な社会を目ざす上からも反対です。標準的な小学校（床面積 3000 ㎡、児童数 200～300 人）をこわす時の Co2 排出量は約 125 トン～150 トンとされています。 ◎例えば 140 トンの Co2 排出量の規模はどれ位か？ ①一般家庭の年間排出量 40 世帯が 1 年間出す量。②杉の木の吸収量　10,000 本が 1 年間かかって吸収する量（AI による概要）　よって資源を守り、学校施設をメンテナンス（長寿命化）して可能な限り使うことが今求められています。	りを最優先に策定したものです。 ・「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」に記載あるとおり、過大規模校、小規模校にはメリット・デメリットがあるため１２～１８学級が適正であると考えています。 ・平方北小が廃校となった際には、校舎を取り壊すだけでなく、既存校舎をそのまま使用するなど有効活用について検討します。
学区外	社会環境の激しい変化の中で、学校教育での役割はますます大きくなっています。小規模な地域の温かい環境で子どもたちがスクスク育って欲しいです。ただ教員側の単学級の大変さも聞いていました。教員数が増えてほしいと、教育予算を増やして再編を考えなくてもよい子どもたちに行き届いた教育をと願っています。地元の方々の声は尊重されるべきと思います。	単学級における教員一人あたりの業務負担の大きさや未配置問題などの課題が存在いたします。市といたしましても、学校規模の適正化を進めることが教職員の負担軽減にも寄与し、ひいては子供たちへ十分に行き届いた教育環境の提供や持続可能な学校運営につながるものと考えております。 再編検討協議会には、地域の方も地域の代表としてご参加いただき議論をしていただきました。いただいたご意見は参考にさせていただきます。
学区外	・小学校は、新一年生でも歩いて行きやすい距離にあることが大切と思います。 ・人数が少なくなる問題ですが、我が孫は愛媛県今治で少人数学級（10 数人）で卒業しました。いじめもなければ皆仲良く過せたようです。中学生になって、3 校が統合された学校になり、自転車で通学しているそうですが 1 学年は	素案のとおり再編となった場合は、通学距離の平均は１．５km 以内となる見込みですが、安全面も含めて慎重に協議してまいります。

	ひとクラスで30人以下です。 合理性ばかりを考えずに子どもたち中心に考えてほしいですね。愛媛でできて上尾でできないことはないのではと思います。	子供たちのことを最優先に考えた場合に、子供たちの教育環境の改善が大事であると考えます。